上岡遺跡出土土偶国重要文化財指定記念

公開講座「上岡土偶が語るもの」

日　時　平成23年11月13日（日）
午後２時～４時

会　場　A・O・Z　多目的ホール

次　第

- 開　　会
- あいさつ
- 遺跡紹介　「上岡遺跡の土偶発見の思い出」
  小原元七（おばら もとしち）氏（土偶発見者）
- 講　　演　「土偶の出現と変遷からみる縄文社会」
  原田昌幸（はらだ まさゆき）氏（文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官）
  （休　憩）10分
- 対　　談　「上岡遺跡の土偶にみる縄文人の想い」
  岡村道雄（おかむら みちお）氏（奥松島縄文村歴史資料館名誉館長）
  駒田晶子（こまだ あきこ）氏（歌人）
- 閉　　会

上岡土偶の歴史

the History of the clay figure of Kamioka

昭和27年　果樹畑の排水溝掘削作業中に発見
昭和36年　福島県重要文化財（考古資料）指定
昭和39年　オリンピック東京大会日本古美術展
平成21年　大英博物館「The Power of DOGU」展
平成21年　東京国立博物館「国宝　土偶展」
平成23年６月27日：国重要文化財指定

●主な掲載図書
「世界考古体系１」昭和34年
「原色日本の美術　第１巻　原始美術」昭和45年
「日本陶磁全集３　土偶埴輪」昭和52年　など

上岡遺跡出土土偶（国重要文化財）

上岡土偶は、
なぜこのように有名に
なったのでしょうか？

そして、腕を組んでいる
上岡土偶は何を
語っているのでしょうか？

縄文人は、なぜこのような
写実的な土偶を
作ったのでしょうか？

上岡土偶の特徴

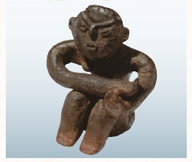
- 座って腕を組んでいる
- 目・鼻・口の誇張表現
- 三角形の頭部表現

- 頭・顔の立体的表現
- おなかのふくらみ
- 大きな乳房
- 丸まった背中の曲線

- 背骨の表現

立体的で写実的に女性を表現　**高さ21.3㎝**

なぜ？　同じポーズと考えられる土偶は、上記のほかに
島根県でも出土。



■野面平遺跡（のもてたい）（青森県八戸市）
高　さ　8.2㎝
類似点　乳房の表現
腹部の膨らみ
目・口の誇張表現
腕組んで座った動作
相違点　頭の表現（三角なし）

■荒谷（あらや）遺跡（青森県八戸市）
高　さ　8.9㎝
類似点　腕組みの動作
相違点　頭・顔の表現省略

さまざまな土偶

■宇輪台（うわだい）遺跡（福島市松川町）
高　さ　6.9㎝
類似点　乳房の表現
相違点　頭・顔の表現
動きの表現なし
腹部のふくらみなし

■和台（わだい）遺跡（福島市飯野町）
高　さ　21.5㎝
類似点　乳房の表現
腹部の膨らみ
相違点　頭・腕表現の省略
動きの表現なし

■郷原（ごうはら）遺跡（群馬県東吾妻町（ひがしあづままち））
高　さ　30.3㎝
類似点　乳房の表現
目の誇張表現
相違点　顔・体の
デフォルメ表現
直立姿勢の表現

■宮畑（みやはた）遺跡（福島市岡島）
高　さ　16.0㎝
類似点　乳房の表現
写実的な顔
相違点　手足表現の省略
直立姿勢の表現
腹部の膨らみなし

さまざまな顔・形・大きさの土偶が存在
※しかし、変わらない乳房の表現
（女性を表現）

なぜ女性？

- ◆特徴ある目・口などの誇張表現
- ◆意外と少ない腹部の膨らみ表現
- ◆少ない動作の表現

土偶以外の身体表現

■三角形土製品（つきざき）
（月崎A遺跡・福島市飯坂町）
人間を三角形に単純化体の
中心線（正中線）と乳房が表現されている
↓
女性？

■土面（しだない）
（萪内遺跡・岩手県盛岡市）
顔面が一段高まっている
鼻口が貼付けたように強調
↓
仮面をかぶっている

■手形足形付き土版（かきのしま）
（垣の島A遺跡・北海道函館市）
子供の手形や足形を押した粘土板
ひもで下げる？穴があいている
↓
子供の形見？

上岡遺跡の紹介

■所在地：福島市東湯野字上岡、宮西ほか
■時　期：縄文時代後期～晩期

【昭和27年の土偶発見と東湯野地区と東湯野村教育委員会の対応】

12月13日　小原元七氏、恒七氏が果樹畑の排水溝掘削作業中に炉跡・縄文土器などを発見し、坪池忠夫氏（東湯野公民館）へ連絡

12月14日　坪池忠夫氏・鈴木善兵衛氏（東湯野中学校）による現地確認
※小原氏の希望及び村内有志のすすめから発掘調査(学術調査)実施へ

12月15日　県社会教育課梅宮茂氏に調査依頼。（※学術調査）
並行して実施していた排水溝掘削中に**土偶が出土**

12月17日　梅宮茂氏、秋山政一氏(信夫高等学校教諭)が来跡し、調査の打合せ

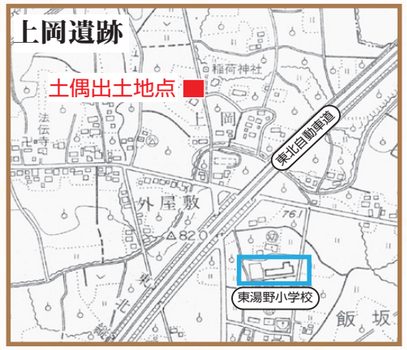
12月18日～30日　東湯野村教育委員会を調査主体とし、梅宮茂氏・秋山政一氏のほか、目黒吉明氏、成田克俊氏、鈴木善兵衛氏、坪池忠夫氏、木村隆平氏、小原元七氏、小原恒七氏とともに、信夫高等学校及び東湯野中学校生徒により発掘調査を実施

上岡遺跡の土偶は、平成23年6月に国重要文化財に指定されましたが、単体の土偶としては国宝・重要文化財指定に指定されている土偶は他に14例しかありません。まさに、上岡遺跡の土偶は、福島市そして福島市民が全国に誇ることができる財産といえます。

しかし、当時は、現在のように、多くの市町村で学術的な発掘調査や開発に伴う発掘調査を実施した例は少なく、上岡遺跡の土偶は、上記のような、発見当時の小原元七氏・恒七氏とともに坪池忠夫氏を中心とした東湯野村のみなさんのご尽力がなければ、今日まで伝えることはできなかったと考えられます。

【昭和56年の調査】

・昭和27年の調査地の再調査
・竪穴住居、土坑、木組遺構等を確認し、縄文時代後期～晩期の集落が存在することを確認



発掘調査で発見された遺構

「上岡遺跡」（東湯野村教育委員会・昭和28年）より作図

昭和27年の発掘調査で出土した遺物

■縄文土器

上岡遺跡方は煮炊きに使う深鉢（後列右）のほかにも注ぎ口のついた注口土器（後列中央・左、中列中央）、ひょうたん形の土器（中列中央右）、小形の壺（前列）などが見つかっています。

■漆塗りの土器・耳飾り

真っ赤な漆が塗られた土器の破片です。薄手で精巧な文様が刻まれています。下の写真は赤漆の塗られた耳飾りです。

■土偶やまつりに使われた道具

国重要文化財に指定された土偶以外にも、土偶の頭や単純化された小形の土偶、土版（右上）等がでています。右下は南西諸島などの温暖な海に生息するイモガイをまねて石で作られた道具です。

上岡土偶発見の様子

土偶は排水溝掘削中に横向きで、黒い土の中から頭・手・胴部がまとまって見つかった。しかし、周辺を探しても残りの部分は発見されなかった。
（小原元七さん談）

見つからなかった**右足、腰**はどこにあるのでしょうか？

『上岡遺跡』（東湯野村教育委員会・昭和28年）に掲載されている土偶実測図
『上岡遺跡』昭和48年9月文献資料刊行会発行より

ほぼ完全な形の土偶たち

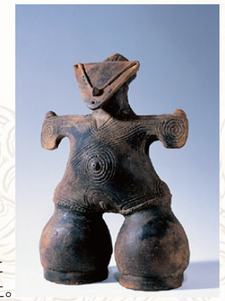
■風張Ⅰ遺跡（青森県八戸市）
・竪穴住居から横たわって出土。
・左足は竪穴住居の反対から出土。

■宮畑遺跡（福島市岡島）
・半分に折られた状態で出土。
・２つの破片を接合したところほぼ完全な形に。

意図的に置かれた・納められた → ほぼ完全な形で出土、あるいは完全な形に復元。**まれな例**

■棚畑遺跡(長野県茅野市)
・墓と考えられる穴から横たわって出土。
・墓の副葬品と考えられている。

■中ッ原遺跡(長野県茅野市)
・左の棚畑遺跡の土偶と同じく墓と考えられる穴から横たわって出土。



しかし、ほとんどの土偶は・・・・

出土状態
●ほとんどが破片での出土
●破片同士が合わさることも少ない

○捨てられた？ ⇔（あるいは）送られた？
○壊されている？ ⇔（あるいは）壊れた？